

の根絶を目指
県民の体感
をさらに
「したい」と祝

建設にあたら
監理業務を日
森建築設計事
当。庁舎建築
設・浅沼組・
JVが、電気
松電気工事
中電工・日本
2017
が施工した。
好設備工業・
総事業費は
5000万円
となった。
には工事に携
に対する感謝
を行われ、扇
各社の代表
手渡された。
次忠は丸川
所となった。
中国整備局
配信

概要等▽入札
約条件、競争
方法等▽発注
（発注者支援
理補助業務

三重県川上ダムを見学

AI・ICTでオート施工

近未来コンクリート研究会

近未来コンクリート研究会（十河茂幸代表）の「生産性向上研究（P）」協議会は今月中旬、三重県伊賀市で建設中の川上ダムを訪れ、施工者である大林・佐藤・日本国土特定JVの説明を受けた。同ダムは、治水や新規利水、流水の正常機能維持などを目的とした堤体高さ84m、総貯水容量3100万㎡の重力式コンクリートダムで、計画期間約50年を経て2019年9月から本体コンクリートの打設工事を開始した。設計・施工から将来の維持管理までを見据え、3次元化した地形・地質データや構造物データなどの基礎データに施工管理データなどの属性情報を付与できるCIMを構築しており、堤体のコン



クリート量45万5000㎡についてはできるだけ継ぎ目を設けずに広範囲を一度に打設する拡張レヤ工法を採用。タワークレーン2基を自動運転する方法で過去にないスピード施工を実現している。見学会に参加した十河会長とP協議会の主査を務める広島工業大学の坂本英輔准教授ら9名の参加者らは、川上ダム工事事務所の上高克弘所長や蔵元一成副所長、小俣光弘監理技術者の説明を受け、生産性を向上させる技術として大いに参考にしたほか、熱心な質疑応答なども行われた。

同会は、元広島工業大学教授の十河代表が中心となって2018年4月に設立したものの、P協議会のほか、初期ひび割れ抑制技術（C）協議会「延命化のための維持管理技術（M）協議会」で構成され、生コンや点検・診断設計、施工などの専門家がコンクリート構造物の長寿命化に向け、業種の垣根を越えた協議を定期的に行っている。

らびにこれに類する業務の概要等が解説される。時間は午前10時から正午まで。Microsoft 講は11月25日までに同局

同研修は、建設産業の喫緊の課題である担い手確保・育成の一環として、建設業の新規入職者など

ITOKI

制震間仕切X

制震ユニットを組み込むだけ。天井裏の耐震改修工事を行うことなく、間仕切と天井を含む空間の耐震性を高めます。

制震ユニットを組み込み、間仕切も天井も護る



天井の揺れを
50%

縦横方向2枚で
約**25㎡**

クリアパートの
オプション
だから

ご使用中の
クリアパートに
後付け可能

減災

GENSAI-KENZAI